

科目名	生体機能代行装置学概論			授業の種類	講義演習	講師名		
授業回数	8 回	時間数	15 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	1年 後期
<p>【授業の目的・ねらい】 医療機器全般に関する概要及び医療従事者・実習生として相応しい態度、医療機関に出入りする者として必要な心構えを身につける。本講義を生体機能代行装置学、治療機器学、計測機器学を学ぶ準備という位置づけとする。</p>								
<p>【実務者経験】臨床工学技士として舞鶴共済病院や神戸大学医学部付属病院等で、慢性維持透析業務や人工心肺・急性期の血液浄化・救急医療等の業務に従事経験。</p>								
<p>【授業全体の内容の概要】 各医療機器の使用目的、構造及び機能について、臨床工学実習室での機器を用いた説明・実習及びスライドによる説明を行う。</p>								
<p>【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ・医療機器全般についての概略を知り、簡単な説明ができるようになる。</p>								
回数	講義内容						準備物(教材)	
1	授業ガイダンス、1次救命処置：心肺蘇生とAED							
2	代謝分野概論（血液透析、腹膜透析、アフェレシス）							
3	代謝分野実習（血液透析回路のプライミング）							
4	呼吸分野概論（人工呼吸器）							
5	循環器分野概論（人工心肺、心臓カテーテル）							
6	循環器分野実習（人工心肺回路の構成と人工心肺操作）							
7	その他の生命維持管理装置（補助循環、人工心臓、ペースメーカー）							
8	小児領域における生命維持管理（循環、呼吸、代謝）							
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
定期筆記試験								
<p>【使用教科書・教材・参考書】 ・臨床工学技士標準テキスト 第3版、小野哲章、金原出版株式会社</p>								
<p>【準備学習・時間外学習】 ・準備学習として当該範囲の予習をして授業に臨むこと ・講義後は板書と教科書の要点をまとめる作業を行うこと</p>								
<p>【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】</p>								
<p>試験の結果を100点満点で成績を評価する 実技テストを40点、定期試験を60点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する</p>								